

# 「V＋着」と＜V＋テイル＞の対照研究(十三)

時 衛国

## 要 約

本研究は対比言語学から汉语の“着”と日本語の〈テイル〉を考察し、重点的に二者と動詞及び時間詞語の共起関係を、各自の語法制限や語義制約を以て、その相同点と相違点を明らかにする。“着”は各種動詞、或は動態、或は静态、但有る限り。表示常時と長時間の語句及び表示現時と持続の語句を以て共起し得る同一句中、複合的時間表現方式を成す。〈テイル〉は動詞と共起し、動態の持続を修飾し得る。二重性の動詞と瞬間動詞、単独で正在の動態と既成の静态を表現する。時間詞語は単独使用、彼此を以て共起し得る同一句中、用法が単調、複合的時間表現方式を成さず。

Keywords : 動的状態 静的状態 二重性 時間を表わす語句 共起

## 1. はじめに

本研究は、中国語の“V＋着”と日本語の＜V＋テイル＞<sup>1)</sup>と時間を表わす語句との共起関係などについて考察しようとするものである。

「V＋着」と＜V＋テイル＞にはどのような共通点と相違点を持っているのか。以下の三つの課題を取り上げることとする。

一、“着”と＜テイル＞は、運動と変化の持続について、それぞれどのような時間を表わす語句と共起し、どのような文法的特徴を持っているのか。その意味と用法について深く考察する。

二、文法上二重性を持つ動詞について、動的状態と静的状態のいずれも修飾語によって表現することができる。“着”と＜テイル＞は、時間を表わす語句と共起する場合は、それぞれの状態についてどのように捉えているのか、

その文法的性格について分析することとする。

三、瞬間動詞と共起する場合、“着”と<テイル>は、どのような文法的機能を持っているのか、どのような制限を受けているのか、それは何故なのか。その文法機能の本質について考察する。

本研究では、“着”と<テイル>と共起する語句として、常時を表わすもの(总是/いつも)、長時間を表わすもの(一直/ずっと)、暫時を表わすもの(暂时/少しの間)、現時を表わすもの(現在/今)などを取り上げる。

以下、“V+着”と日本語の<V+テイル>が時間を表わす語句と共起する場合、それぞれ動作動詞、二重性を持つ動詞と瞬間動詞とはどのような関係にあるのかについて考察することとする。

## 2. 先行研究

“着”については、李临定(1985・1986)、陈平(1988)、徐丹(1992)、菅谷有子(1996)、刘一之(2001)、金立鑫(2004)、王学群(2007)、高橋弥守彦(2007)、张黎(2012)、三宅登之(2013)などの研究があるが、本研究のテーマに関する研究は少ないようである<sup>2)</sup>。戴耀晶(1997)、费春元(1992)などは、本研究における文法上の二重性のある動詞については触れているが、さらに検討することも必要だと考えている。

<テイル>については、金田一春彦(1950)、藤井正(1976)、吉川武時(1976)、奥田靖雄(1977)、寺村秀雄(1979)、工藤真由美(1995)、中畠孝幸(1999)などの研究がある。また、文法上の二重性のある動詞については、工藤真由美(1982)、仁田義雄(1982)は触れているが、あまり詳しく述べられてはいない。この問題については、もう少し深く考察する必要があると考えている。矢沢真人(1985)では<テイル>と副詞との関係を中心に、その階層性について説明している<sup>3)</sup>。

## 3. 分析

### 3. 1. 動作動詞の場合

#### 3. 1. 1. “着”

“着”は“看(見る)”“说(言う)”“听(聞く)”“读(読む)”“写(書く)”“做

(作る)“搞(やる)”“干(する)”“吃(食べる)”“喝(飲む)”“画(画く)”“唱(歌う)”などの動詞を修飾する時には、時間を表わす語句とは共起することができるが、文法的に制限される場合がある。たとえば、

- (1) ?a 他总是看着电视。(彼はいつもテレビを見ている)  
b 他总是在看着电视。(彼はいつもテレビを見ている)<sup>4)</sup>
- (2) ?a 他一直看着电视。(彼はずっとテレビを見ている)  
b 他一直在看着电视。(彼はずっとテレビを見ている)

“着”は、(1)と(2)の a において常時を表わす“总是(いつも)”と長時間を表わす“一直(ずっと)”と共起しているが、少し不自然な感じを受ける。“着”は動作の持続を表わしているが、そのまま常時や長時間を表わす語句と共起すると、文法的には落ち着かないため、そのままでは共起しにくいものと考えられる。

“着”は“她总是(一直)带着雨伞(彼はいつも(ずっと)傘を持っている)”“他总是(一直)留着胡子(彼はいつも(ずっと)鬚を蓄えている)”“路旁总是(一直)停着汽车(道端にいつも(ずっと)車が止まっている)”“四周总是(一直)飘着花香(周辺にはいつも(ずっと)花の香りが漂っている)”のように、静的状態を表わす“带(持つ)”“留(蓄える)”“停(止まる)”“飘(漂う)”などを修飾する時には、そのまま常時や長時間を表わす語句と共起することができる。つまり、常時や長時間を表わす語句は、“带着(持っている)”“留着(蓄えている)”“停着(止まっている)”“飘着(漂っている)”という静的状態を修飾することができるため、落ち着いた表現として用いられている。そのため、“着”はこのような静的状態を修飾する場合は、常時や長時間を表わす語句と共起しやすいとも言えよう。

“看(見る)”“说(言う)”“听(聞く)”“读(読む)”などの動詞は、動作や行為などを表わす動詞として、動的状態を表わしている。“着”はこの種類の動詞を修飾する場合は、その動的状態の持続を表現することになる。常時や長時間を表わす語句と共起すると、「どんな時でも」「はじめから終わりまで」と

いう意味になってしまっているため、文としては落ち着かないのである。言い換えると、“着”は“看着电视(テレビを見ている)”のように見ているという動的状態を修飾する場合、その動的状態と常時や長時間を表わす意味とは落ち着かないため、共起しにくいのである。この点では、上記の静的状態を修飾する場合とは異なっている。

ところが、“着”は、(1)と(2)のbのように持続を表わす副詞の“在(している)”と共起する場合は、動的状態の持続を表現する構造として、テレビを見ているという動的状態を描写することができるようになる。このような場合は、常時や長時間を表わす語句と共起することができるのである。(1)のbは、発話者が捉えた時点においては、彼がどんな時でもテレビを見ているということを表わしている。そして、(2)のbはある時間的枠において、はじめから終わりまでずっとテレビを見ているという状態を表わしている。ここから考えると、“着”は動的状態を修飾する場合は、持続を表わす副詞と共起すれば、常時や長時間を表わす語句によって修飾することができると言える。

しかし、状態が持続中であることを表わす副詞の“在(している)”の類義語に“正(しているところだ)”“正在(している最中だ)”がある。“正(しているところだ)”“正在(している最中だ)”は“??他总是正看着电视(「彼はいつもテレビを見ている」の意)”“??他总是正在看着电视(「彼はいつもテレビを見ている」の意)”“??他一直正看着电视(「彼はいつもテレビを見ている」の意)”“??他总是正在看着电视(「彼はいつもテレビを見ている」の意)”のように、常時や長時間を表わす語句とは共起することができない。

“正(しているところだ)”は発話時に持続していることを表わし、“正在(しているところだ)”は“正+在”からなったものと思われ、“正(しているところだ)”に比べて、さらに発話時に持続していることを強調する時に使われるからである。“在(している)”は、発話直前からの動作・状態が持続していることを表わすので、一定の時間的幅が想定できるため、常時や長時間を表わす語句と共起できるのに対し、“正(しているところだ)”は“正在(しているところだ)”は発話時に持続していることを表わして、常時や長時間を表わす語句の意味と矛盾しているため共起できないのである。

“着”は現時や暫時などを表わす語句と共起することができる。たとえば、

- (3) 他现在看着电视。(彼は今テレビを見ている)
- (4) 他现在在(正/正在)看着电视。(彼は今テレビを見ている)
- (5) 他暂时看着电视。(彼は今テレビを見ている)
- (6) 他暂时在(正/正在)看着电视。(彼は今テレビを見ている)

“着”は、(3)では“现在(現在)”と共起し、現在テレビを見ているという状態を表わしている。細かく分析すると、“现在看着电视”は現在テレビを見ているということを表わし、話者が発話時点において「見ている」という動的状态を表現している。(4)における“现在在看着电视”は発話時前から持続してきていることを示唆し、現時点でもその状態が持続していることを表わしている。“现在正看着电视”は現時点でその動的状态が持続中であることを表わしている。それに対し、“现在正在看着电视”の場合は、さらに今現在もその状態が持続していることを強調している。

“现在”は“现在一直在(??正)(??正在)看着电视”のように、“一直”と共起し、現在という時間的枠内における動的状态が持続していることを表わすことができる。ただし、この場合は、“在”は発話時前から今現在まで時間的幅が広く設定されているので、共起することができるが、“正”“正在”は時間的幅がないため、“现在一直”とは共起することができない。“正”“正在”と“现在一直”とは意味的にも矛盾しているので、同じ表現には用いることができないのである。また、“\*一直现在在看着电视(「ずっとテレビを見ている」の意)”のような、“一直现在”という表現も成立しない。

(5)では“着”は、“暂时(暫らく)”と共起し、短時間にテレビを見ているという状態を表わしている。(6)では、“暂时”は“在”“正”“正在”と共起し、少しの間テレビを見ているという動的状态の持続を発話時点で様々な視点によって修飾している。また、“现在暂时看着电视(今少しテレビを見ている)”のように、現在という時間的枠内における暫時を表わす場合は、「現時+暫時」という構造を取れば、現時を表わす語句とも共起することができる。ただし、“\*暂时现在看着电视(「今少しテレビを見ている」の意)”のように「暫時+現時」の場合は許容されないと考える。暫時という時間的枠内では現時の想定ができないからと考えられる。また、“暂时一直看着电视(「ずっとテレビ

「を見ている」の意）」のように常時や長時間を表わす語句とは共起することができない。この表現も「暫時」という時間的設定の中では現時の想定ができないからであろう。

“着”は常時や長時間を表わす語句と共起する場合はそれなり制限を受けており、持続を表わす副詞と共起しなければならないが、現時や暫時を表わす語句と共起する場合は、直接共起でき、さらに持続を表わす副詞と共起することができる。文法的に制限を受けるという一方で、様々な語句との共起も許容されるので、様々な時間枠内での持続を表現できる点に特色がある。

### 3. 1. 2. <テイル>

<テイル>は、「見る」「言う」「聞く」「読む」「書く」「作る」「やる」「食べる」「飲む」「歌う」などの動詞を修飾する時には、動的状態をいずれも表現することができるという点では、“着”と共通している。たとえば、

- (7) 彼はいつもテレビを見ている。
- (8) 彼はずっとテレビを見ている。
- (9) 彼は今テレビを見ている。
- (10) 彼は今テレビを見ているところだ。
- (11) 彼は現在テレビを見ている最中だ。
- (12) ??a 彼は暫くテレビを見ている。  
b 彼は暫くテレビを見ていた。

<テイル>は(7)では、「いつも」という副詞と共起し、どんな時でも常にテレビを見ているという、常時における動的状態の持続を表現している。(8)では、「ずっと」という副詞と共起し、ある時間枠内でははじめから終わりまでその動的状態が持続していることを表現している。この二つの表現は、「\*彼はいつもテレビを見ている最中だ」「\*彼はずっとテレビを見ている最中だ」などのように、動的状態の持続中であることを表わす「~最中だ」「~ところだ」とは共起することができない。つまり、<テイル>は(7)(8)では、常時や長時間における動的状態の持続を表わしているが、その表現の場合は、持続の

最中を表わす「～最中」「～ところだ」などとは意味的には矛盾しており、表現としては成立しないのである。

また、常時と長時間という時間の設定の仕方も異なっているので、常時を表わす語句と長時間を表わす語句とは同じ文に用いることができない。たとえば、「\*彼はいつもずっとテレビを見ている」「\*彼はずっといつもテレビを見ている」などのように、並立することができない。それぞれが表わす時間的幅が異なっているので、一緒に用いられると、矛盾してしまうからである。

<テイル>は常時や長時間を表わす語句と共起できるという点では、“着”と同じであるが、常時や長時間を表わす語句と一緒に同じ文に使用することができないという点では、それと大きく異なっている。日本語では常時と長時間との概念は時間設定上異なっており、時間の長さを混同することはできないものと考えられる。

そして、(9)では、<テイル>は現時を表わす「今」と共起し、話者の発話時における動的状態の持続を表現している。「今」は過去と未来の境に位置することを表わしているので、広い時間の幅が想定できる。(10)(11)では同じ現時を表わす「ところだ」「最中だ」と共起しているが、今この時という意味を表わしているので、「今」より時間の幅は短い、今現在という時間枠内における動的状態の持続を表現できるという点では「今」と同じである。

(12)の a では、そのままでは表現として落ち着かないので、(12)の b のように<テイタ>の形を取れば、短時間における動的状態の持続を表現することができる。短い時間においてもその動的状態の持続は表現できるが、ただその動的状態の最高潮は表現することができない。つまり「\*彼は暫時テレビを見ている最中だ」「\*彼は暫時テレビを見ているところだ」などの表現は成立しない。暫時は少しの間という短時間を表現するだけで、今現在という意味を表わすわけではない。そのため、「～最中だ」「～ところだ」とは共起できないのである。

日本語では常時や長時間を表わす語句だけでなく、現時や暫時を表わす語句は、「\*彼は只今暫時テレビを見ている」「\*彼は暫時只今テレビを見ている」のように、同じ文にも使用できない。日本語では時間を表わす語句は、独立性が高く、他の時間的語句との混在を容認しないものと考えられる。また、

時間的語句と動的状態の持続の表現との共起はあまり文法的制限を受けず、  
<テイル>だけで持続を表現できるという点が日本語の特色である。

### 3. 2. 二重性を持つ動詞

#### 3. 2. 1. “着”

中国語には、“穿(着る・穿く)”“戴(かぶる)”“挂(掛ける)”“套(かぶせる)”  
“系(締める)”“晾(晒す)”“捏(摘まむ)”“罩(覆う)”“披(羽織る)”などの  
文法上二重性を持つ動詞がある<sup>5)</sup>。このような種類の動詞は、動作そのもの  
を表わすという側面と、その動作による結果を表わすという側面があるため、  
いわゆる文法上の二重性があるということである<sup>6)</sup>。そのため、動的状態を  
表わしているのか、静的状態を表わしているのかははっきりせず、修飾語に  
よって表現することになる。

これらの動詞は、“着”と共起する場合は、修飾語によって動的状態と静的  
状態をいずれも表現することができる。また、常時や長時間などを表わす語  
句とも、現時や暫時を表わす語句とも共起することができる。たとえば、

(13) 他总是穿着西服。(彼はいつも背広を着ている)

(14) 他一直穿着西服。(彼はずっと背広を着ている)

(15)\*他总是在穿着西服。(「彼はいつも背広を着ている」の意)

(16)\*他一直穿着西服。(「彼はずっと背広を着ている」の意)

“总是(いつも)”のような修飾語は、他に“经常(常に)”“时常(時々)”“常  
常(よく)”“老是(しょっちゅう)”“一直(ずっと)”“一贯(一貫して)”“始终(一  
貫して)”などがある。これらの副詞は、修飾語として“穿(着る・穿く)”の  
ような動詞を修飾する場合は、その静的状態を表わしているため、“着”はそ  
の静的状態を描写することになる。

“着”は(13)では、発話時点において、彼が普段背広を着ているという静  
的状态を表わしている。一方、(14)では、彼がずっと背広を着ているという  
静的状態を表わしている。(13)(14)は“穿(着る)”という動詞の動的状態で  
はなく、その静的状態を表わしているという点では共通している。“总是(い



つも)”と“一直(ずっと)”とは、それぞれいつも変わらない様子と中断することのない様子を表わすからである。そして、この場合、“穿(着る)”という二重性を持つ動詞については、その静的状態を修飾することになるため、その静的状態を修飾する用法であり、その動的状态を修飾する用法ではないと言える。この点では、上記の動作・行為などを表わす動詞の場合と異なっている。動作・行為などを表わす動詞は、動的状态を表わすことになり、そのままでは、“着”とは共起しにくい。他の副詞の介在を通して、その動的状态を表現することができる。動作・行為などを表わす動詞は、そのままでは常時や長時間を表わす語句と共起できないという点では、二重性を持つ動詞と異なっている。そして、二重性を持つ動詞は、その静的状態を修飾する語句によって、その静的状態の常時性や長時間性を表現することになる。

二重性を持つ動詞は、(15)(16)のように、持続を表わす“在”と共起しても、動的状态を表わすことができないという点では、動作・行為などを表わす動詞とは大きく異なっている。常時や長時間などを表わす語句は、二面性を持つ動詞を修飾する場合は、その静的状態の側面を把握することになり、その動的状态の側面を把握することができない。なぜなら、常時や長時間を表わす語句は、意味的にはどんな時でも、中断することがないといった時間的幅を規制しているため、その静的状態を修飾しやすく、静的状態でなければ、その常時性や長時間性の時間的幅が想定できないからである。たとえば、(13)(14)の場合、常時の様子と長時間に持続している様子を表わしているのので、その静的状態を修飾することができるが、その動的状态を修飾することはできないのである。動的状态は、常時の様子と長時間に持続している様子を表わす語句の意味とは矛盾しており、それによつては表現することができない。

(17)では、現時を表わす“現在”は“着”と共起し、“穿(着る)”を修飾しているが、その動的状态を表わしているのか、それともその静的状態を表わしているのかははっきりしない。というのは、彼は現在背広を着ているところだという意味を表わす場合は、その動的状态の持続を表現していると考えられるが、彼は常に背広を着ているという意味を表わす場合は、その静的状態の持続を表現しているものと言えるからである。現在は今現在の意味も、

過去から現在までの長い時間を表わす意味も表わすことができるからでもある。

- (17) 他現在穿着西服。(彼は今背広を着ている)
- (18) 他现在在穿着西服。(彼は現在背広を着ている)
- (19) 他现在正穿着西服。(彼は現在背広を着ている)
- (20) 他现在正在穿着西服。(彼は只今背広を着ている)

一方、“現在”は“在”“正”“正在”などと共に“着”と共に起す場合は、動的状態を修飾しているものと考えられる。たとえば、(18)(19)(20)では、彼が今現在背広を着ている最中だということを表わしているのも、その静的状態ではなく、その動的状態の持続を表わしていると言える。今という時間を表わす語句によって、その動作の最中を表現しているのも、その動的状態を把握していると理解される。つまり、現時を表わす語句と持続中であることを表わす語句が共に使用される場合は、その動的状態を修飾しているだけに止まって、その静的状態を修飾することができないというわけである。

“穿(着る・穿く)”のような種類の動詞については、戴耀晶(1997)では、二重性を持っているとし、この二重性は他の成分の影響はあるが、動詞の意味によるところが大きいと考えられる。能動表現の場合は、その動的側面が強いが、存在表現の場合はその静的側面が強いと述べている(同 P90)。王学群(2007)、費春元(1992)なども触れている。ただし、修飾語による二重性の喚起という点についてはあまり述べられていない。

“穿(着る・穿く)”のような種類の動詞は、二重性を持っているため、修飾語の有無や修飾語の種類によるその動的状態修飾の機能と静的状態修飾の機能の発揮は、意味表現にも大きな影響をもたらしていると考えられる。“着”もその各々の状態に対し、それぞれ異なった文法的機能を果たすことになる。この点では、“穿(着る・穿く)”のような二重性を持つ動詞は、他の動詞と異なった文法的性格を持っていると言える。そして、“着”はその動詞の意味によって、動的状態把握の機能と静的状態把握の機能をそれぞれ果たすことになるのである。

### 3. 2. 2. <テイル>

「着る」「穿く」「かぶる」「まとう」「脱ぐ」「着替える」「掛ける」「かぶせる」「羽織る」などの動詞は、動的状态を表わすことも静的状態を表わすこともできるので、二重性を持つ動詞として、様々な時間の修飾語による修飾を受け入れることができる。

これらの動詞は、修飾語の意味と種類により、静的状態の表現にも、動的状态の表現にも使用することができる。たとえば、

- (21) 彼はいつも背広を着ている。
- (22) 彼はずっと背広を着ている。
- (23) ??a 彼は少しの間背広を見ている。  
b 彼は少しの間背広を着ていた。

<テイル>は、常時や長時間や暫時を表わす語句と共起する場合は、いずれも背広を体に着用しているという静的状態の持続を表現している。(21)では、常に背広に身に付いていることを表わしている。(22)では長時間にわたって着用していることを表わし、決められた時間範囲内において終始背広を着用していることを表現している。一方、(23)では、短い時間ではあるが、その少しの間に背広を着用していたことを表わしている。<いつも><ずっと><少しの間>の三語は、常時や長時間や短時間を表わす語句として、時間の長短には関わりなく、体に付着しているという静的状態を表現していると考えられる。つまり、長時間でも、短時間でも、一定の時間内において、その動作の結果としての静的状態を表わしているのみであり、その動作自体を表わすわけではないということである。この点では、中国語と共通している。

- (24) 彼は今背広を着ている。
- (25) 彼は背広を着ている最中だ。
- (26) 彼は背広を着ているところだ。

<テイル>は「今」「現在」などの語句と共に起る場合は、すでに背広を着用しているという静的状態を表わしているのではなく、発話時点においてその動作・行為が持続しているということを明示している。この点では中国語の“着”と全く同じである。

現時を表わす修飾語は、動的状态に伴う様子を表わしているため、「着る」という動作的側面を修飾している。<テイル>は今現在という発話時におけるその動的側面について、その動的状态の持続を描写している。たとえば、(24) (25) (26) の場合は、発話時において動作が行なわれていることを表わし、動的状态の持続を強調している。「今」「現在」「只今」などの語句は、いずれも時間的幅が広いことを表わすわけではなく、発話時点において設定された時間(或いは期間)の中の一刻だけを絞って表わしているので、発話時の動的状态を修飾しているのである。この点では、「いつも」「常に」「しょっちゅう」「時々」「ずっと」などの修飾語とは異なっている。現時を表わす語句と常時や長時間や短時間を表わす語句とは、同じ時間を表わす語句とはいえ、動的状态の持続を表現しているのか、静的状態を表現しているのかという対立した傾向があると考えられる。

そして、<テイル>はある時間範囲内における動的状态や静的状態のいずれも修飾し、その状態の持続を表現することができる。また、修飾語の種類によって、動的状态を修飾するか、静的状態を修飾するかということも把握できる。この点では、<テイル>は“着”と共通している。つまり、この二語は、いずれも把握の対象としての動詞の意味とその修飾語の意味による制限を受けており、動的状态か静的状態による持続表現の文法的機能を果たすことができるということである。

工藤真由美(1982)では、シテイルの基本的意味は「動きの継続」と「変化の結果の継続」だとし、スルとシテイルの対立をもつ動詞は、大きく(A)運動動詞と(B)状態動詞の二つに分けられている(同 P55-56)。(A)1 動き動詞——歩く、泣く、食べる、読む、言う、たたく、開ける。(A)2 変化動詞——開く、死ぬ、消える、行く、出る、太る、結婚する。(A)1 はシテイルで「動きの継続」を表わし、(A)2 は、シテイルで「変化の結果の継続」を表わすと述べている。「着る」「はく」「かぶる」「はおる」「まとう」「脱ぐ」「きがえる」という動詞について、

主体の変化を表わしている動詞として分類し、シテイルで基本的には「変化の結果の継続」を表わしていて、(A)2のグループに属していると述べている(同 P58)。

時間を表わす修飾語が来る場合は、その修飾語の意味や種類によって、静的状態の持続を表現できるだけでなく、その動的状態の持続も表現することができる。この点については仁田義雄(1982)では、再帰動詞と呼ばれる動詞として、「着る」「かぶる」「履く」「脱ぐ」「浴びる」などを挙げている(同 P39)。「㉑隣の部屋で着物を着ている」という表現の場合は、進行であり、「㉒かわい衣着物を着ている女の子」という表現の場合は、結果の残存であるとし、再帰動詞は主体運動であるとともに、主体変化なのである。この事が、再帰動詞をして、㉑㉒のように、「テイル」を進行とも結果の残存とも解させることの起因なのであると述べている(同 P39)。この指摘は重要だが、時間を表わす修飾語を受ける場合は、「主体運動」から「主体変化」への切り替えも、また、「主体変化」から「主体運動」への切り替えも可能であると指摘できる。言い換えれば、その動的状態の持続(仁田(1982)における「主体運動」に相当)とその静的状態の持続(仁田(1982)における「主体変化」に相当)は互いに切り替えることもできるということである。時間を表わす修飾語は、その意味と用法の切り替えを可能にすることができるのである。修飾語の意味は被修飾語である動詞の意味表現に影響を与えているものと考えられる。

工藤氏と仁田氏はいずれも再帰動詞として分類されている「着る」「はく」などの動詞について触れてはいる。工藤氏はこれらの再帰動詞の持つ運動を表わす意味と用法に関しては言及していない。一方、仁田氏は<テイル>の進行(運動)を表わす意味と用法・結果の残存を表わす意味と用法について分析している。ただ、両氏の研究には修飾語による各種の意味と用法への影響等について言及した内容は見られない。

上述のように、これらの再帰動詞は、動的状態を表わす意味と静的状態を表わす意味を持っているため、修飾語による影響も大きく、意味的にも文法的にも<テイル>の状態描写に変化をもたらすものと考えられる。修飾語の有無は、その二重性の認識にもつながり、重視すべき視点だと考えている。

### 3. 3. 瞬間動詞

#### 3. 3. 1. “着”

“着”はその種類により、瞬間動詞と共に起することもできる。たとえば、

(27) 这个房间总是亮着灯。(ライトがいつも点いている)

(28) ??他总是住着院。(「彼は入院している」の意)

(29) 他一直住着院。(彼はずっと入院している)

(30) 他暂时住着院。(彼はしばらく入院している)

(31) 他正在住着院。(彼は入院している)

(32) 他现在一直住着院。(彼は現在入院している)

(33) 他现在正在住着院。(彼は現在入院している)

(27)では、“灯亮着(ライトが点いている)”という動的状態について、常時や長時間を表わす語句は修飾することができる。“总是”“一直”“暂时”は“总是亮着灯(ライトはいつも点いている)”“一直亮着灯(ライトがずっと点いている)”“暂时亮着灯(ライトは少しの間点いている)”などのように、いつも点灯しているという動的状態を表現している。また、“现在”“正在”“在”なども“现在正亮着灯(今ライトが点いている)”“现在正在亮着灯(只今ライトが点いている)”などのように、点灯が持続中であることを表現することもできる。また、“总是亮着灯(いつもライトが点いている)”“现在一直亮着灯(現在ライトが点いている)”のように、常時を表わす語句と長時間を表わす語句も、現時と長時間を表わす語句も共起することができる。

また、(28)では、“他总是住着院”が成立しないのは、“总是”と“住着院”は意味的には相容れられないからである。中国語の“总是”は「いつも」の意味の他、また、「いつまでも」という強い意味も持っているので、「入院している」という内容の表現にはふさわしくないとされる。

一方、(29)(30)(31)における“一直”“暂时”“正在”は、それぞれ“住着院”と共に起し、はじめから終わりまでの時間的幅・少しの時間的幅と今現在という時間的幅を表現している。言い換えると、三語はそれぞれ入院しているという静的状態の持続の長い時間と短い時間と今現在の極僅かな時間を表わ

している。(32)(33)における“現在”と“一直”、“現在”と“正在”は、それぞれ異なった意味を表わしているため、同じ文において共起することができる。たとえば、(32)では、“現在”は、過去から未来の間、“一直”はその間じゅうを表わしているので、現在、ある状況が長く続いているさまを表現することができるため、共起することができる。そして、“現在”と“正在”は、現在持続中であることを表わしているので、現在は入院生活が持続していることを表現することができるため、同じ文において共起することができるというわけである。

ところが、“结婚(結婚する)”“离婚(離婚する)”“入学(入学する)”“毕业(卒業する)”などの動詞は、瞬間動詞として分類されているが、それらが表わす意味は、結果を強調することになり、時間を表わす語句とは共起することができない。たとえば、“\*结着婚(「結婚している」の意)”“\*离着婚(「離婚している」の意)”という表現はもとより、“\*总是结婚(「結婚している」の意)”“\*总是离着婚(「離婚している」の意)”という表現も、“\*一直结着婚(「結婚している」の意)”“\*一直离着婚(「離婚している」の意)”という表現も、“\*暂时结着婚(「結婚している」の意)”“\*暂时离着婚(「離婚している」の意)”という表現も成立しない。また、“\*现在结婚(「結婚している」の意)”“\*现在离着婚(「離婚している」の意)”と“\*正在结婚(「結婚している」の意)”“\*正在离着婚(「離婚している」の意)”という表現も成立しない。それで、“结婚(結婚する)”“离婚(離婚する)”のような動詞は、長時間や短時間などを表わす語句と持続中であることを表わす語句とは共起することができないと言える。

このように、瞬間動詞はそれ自体の意味により、時間を表わす語句や持続中であることを表わす語句と共起する場合と共起できない場合とがある。共起できる場合は、(27)(29)のように、いずれも動的状態の持続を表現することになる。なぜなら、その動的状態の持続の長い時間や短い時間などを表わす語句とも持続中であることを表わす語句とも共起することができるからである。一方、時間を表わす語句や持続中であることを表わす語句と共起できない瞬間動詞は、その意味により、長時間や短時間および進行中であることを表わすことができないため、時間や持続を表わす語句と共起できないということになるのである。

### 3. 3. 2. <テイル>

日本語では、瞬間動詞にはその意味により、時間や持続などを表わす語句と共起できる動詞と共起できない動詞がある。

<テイル>は、瞬間動詞を修飾する場合は時間や持続を表わす語句とも共起できるという点では、“着”と共通している。たとえば、

- (34) いつもライトが点いている。
- (35) ずっとライトが点いている。
- (36) 少しの間ライトが点いている。
- (37) 現在ライトが点いている。
- (38) ??只今ライトが点いている。
- (39) 常に入院している。
- (40) \*常に退院している。
- (41) ずっと入院している。
- (42) ??現在ずっと入院している。

<テイル>は(34)(35)(36)において、「いつも」「ずっと」「少しの間」と共起し、長時間や短時間などを表わすことができるという点では、“着”と共通している。

(37)では、「現在」と共起しているが、(38)では、「只今」と共起することができない。なぜなら、「現在」は過去と未来の間を表わすので、かなり長時間にわたってある状況が持続することも表現できるからである。それに対し、「只今」の場合は、今この時という限られた時間しか表わせないので、状態の持続が必要な時間の表現には不十分なため、この場合は<テイル>と共起することができない。

(39)では、「常に」はどんな時でもという意味を表わす副詞として、<テイル>と共起し、「入院する」を修飾している。この場合は動的状態を表現しているものと言える。ところが、(40)における「退院する」を修飾することができない。これは「入院する」と「退院する」との意味が違っているからであろう。というのは、「入院する」の意味は、病気やけがの治療などで一定の期間病院



に入ること、そして治療を受け続けることになるからである。それで、長時間や短時間などを表わす語句との共起が許容されるのである。また、「現在入院している」という表現も成立する。それに対し、「退院する」は、入院していた患者が病状が回復して病院から出ることを表わすので、治療によって病気や傷が完全に治るといふ全快の結果を示すことになる。長時間や短時間及び今現在を表わす語句とは意味的には相容れられないため、共起することができないのである。この点では、“着”とほぼ同じである。

(42)のように、現時を表わす「現在」と持続を表わす「ずっと」は、意味的には近似しているため、同じ文には並立することができない。「現在」は「現在入院している」のように、〈テイル〉と共起することによって、現在持続中であることを表現することができる。一方、「ずっと」は「ずっと入院している」のように、〈テイル〉と共起しているので、かなり前から現在まで入院生活が持続していることを表現することができる。「現在」と「ずっと」は意味的には互いに抵抗しているので、同じ文に用いられる場合は不自然な感じを受けるのである。〈テイル〉は強い描写の機能を持っているため、それぞれ「現在」と「ずっと」と共起し、時間や持続の意味を表現することができる。ただし、この二語が共に登場する場合は、複雑な意味表現になり、〈テイル〉と共起しにくいのである。この点では“着”と全く異なっている。“着”は強い描写の機能を持っているが、現在とその最中の意味表現も受容することができるため、共起することができるとも考えられる。

一方、〈結婚する〉〈離婚する〉〈入学する〉〈卒業する〉などの瞬間動詞は、「\*常に結婚している」「\*いつも離婚している」「\*ずっと入学している」「\*只今卒業している」などのように、時間や持続などを表わす語句と共起することができない。瞬間動詞はその意味により、時間や持続などを表わす語句と共起できる動詞もあるが、大きく制限されている。

“着”と〈テイル〉は、時間や持続・現在を表わす語句と共起する場合は、いずれも動的状態の持続を表現することができるという点では大体共通しているが、語により共起できたりできなかったりし、また複雑な意味表現も受容することができるという点では少し異なっている。

#### 4. まとめ

両語は動作動詞や二重性を持つ動詞や瞬間動詞も修飾し、常時や長時間を表わす語句とも、現時や暫時や持続を表わす語句とも共起し、動的状態と静的状態の持続を表現することができるという点では大体共通しているが、現時や暫時を表わす語句と共起した時に、更に持続を表わす語句とも共起し、多様な時間表現を構成できるという点では“着”は<テイル>と大きく異なっている。

“着”は、動作動詞を修飾する場合、常時や長時間、現時、暫時などを表わす語句と共起すれば、様々な時間における動的状態を描写することができる。二重性を持つ動詞を修飾する時には、常時や長時間、暫時を表わす語句と共起して、その静的状態を修飾することができる。また、現時や持続を表わす語句と共起する場合は、その動的状態を修飾することができる。瞬間動詞を修飾する場合は大きく制限されているが、語により、その動的状態の持続を表現することができる。また、現時と長時間を表わす語句も現時と持続中を表わす語句も共起して、複合的な時間における動的状態と静的状態を表現することができる。

<テイル>は動作動詞を修飾する場合は、常時や長時間・現時および持続を表わす語句と共起し、その動的状態の持続を表現することができる。二重性を持つ動詞に対しては、修飾語によってその静的状態も動的状態も表現することができる。又、語により、瞬間動詞を修飾することもできる。しかし、常時を表わす語句と長時間を表わす語句との共起も、現時を表わす語句と長時間を表わす語句との共起もできないため、複合的な時間表現は構成することができない。持続時の時間表現は単調で変化に乏しいものと思われる。

#### 注

- 1) 本研究では、中国語の考察語は“ ”、日本語の考察語は< >で示す。以下同じである。
- 2) 本研究と直接関係しない論考については取り上げないこととする。以下同じで

ある。

- 3) 詳しくは矢澤真人(1985)を参照されたい。
- 4) 本研究では考察語と共起語句については下線を引く。以下同じ。
- 5) 费春元(1992)では、“穿(切る・はく)”“戴(かぶる)”などの二重性のある動詞については、動態動詞と静態動詞として分類しているが、その分類の根拠は十分示していない。詳しくは费春元(1992)を参照されたい。
- 6) ここでは、文法上の二重性について修飾語を取り上げたが、“着”と修飾語との関係については更に考察する必要があると考えている。

## 参考文献

### 中国語

- 北京大学中文系 1955・1957 级语言班编(1982)《现代汉语虚词例释》商务印书馆
- 戴耀晶(1997)《现代汉语时体系统研究》浙江教育出版社
- 房玉清(1992)《实用汉语语法》北京语言学院出版社
- 费春元(1992)「说“着”」《语文研究》第二期
- 侯学超(1998)《现代汉语虚词词典》北京大学出版社
- 金立鑫(2004)「“着”“了”“过”时体意义的对立及其句法条件」《第七届国际汉语教学讨论会论文选》北京大学出版社
- 李敏(1998)「现代汉语主宾可互易句的考察」《语言教学与研究》第四期
- 刘一之(2001)《北京话中的“着”(zhe)字新探》北京大学出版社
- 吕叔湘主编(1984)《现代汉语八百词》商务印书馆
- 石毓智(2006)「论汉语的进行体范畴」《汉语学习》第三期
- 王学群(2007)『中国語の“V着”に関する研究』白帝社
- 张黎(2012)《汉语意合语法研究——基于认知类型和语言逻辑的建构》白帝社
- ### 日本語
- 奥田靖雄(1977)「アスペクトの研究をめぐって—金田一的段階—」『宮城教育大学国語国文』8
- 金田一春彦(1950)「国語動詞の一分類」金田一春彦編(1976)『日本語動詞のアスペク

ト』むぎ書房

工藤真由美(1982)「シテイル形式の意味記述」武蔵大学『人文学会雑誌』13巻4号

寺村秀夫(1982・2003)『日本語のシンタクスと意味』Ⅱくろしお出版

中島孝幸(1999)「結果を表す構文について：テイルとラレテイル」『三重大学日本語学文学』10号

仁田義雄(1982)「動詞の意味と構文——テンス・アスペクトをめぐって——」『日本語学』1巻2号

藤井正(1976)「動詞+テイルの意味」金田一春彦編(1976)『日本語動詞のアスペクト』むぎ書房

矢澤真人(1985)「状態修飾成分と<シテイル>の意味」『日本語学』4巻2号

吉川妙子(2012)『日本語動詞テ形のアスペクト』晃洋書房

吉川武時(1976)「現代日本語動詞のアスペクトの研究」金田一春彦編(1976)『日本語動詞のアスペクト』むぎ書房

謝辞：著者の原稿については、山東大学時代の恩師であり、愛媛大学教育学部元教授の菊川國夫先生にご指導を賜りました。お礼を申し上げます。また、愛知教育大学勤務期間中、色々お世話になりました関係各位に厚くお礼を申し上げる次第であります。

(じえいこく・愛知教育大学教授/山東大学特聘教授)